

非鉄金属概況

日本鉱業協会 企画調査部

銅

【海外】

1. 価格推移



- ・ COVID-19 感染拡大の影響による底値 \$4,618(3月23日)から経済活動再開が進み、6月は1か月間で \$500 以上の上昇
- ・ 6月30日、1月23日以来の高値となる \$6,038.00

(2018年6月～2020年5月の値は月平均)

2. 需給動向

国際銅研究会(ICSG)の6月19日発表によると、2020年1～3月の世界の銅鉱石生産は491万t(2019年1～3月比0.5%増)、地金生産は582万t(0.2%減)、地金消費は569万t(2.6%減)で、地金需給バランスは+13.0万tの余剰だった。(協会注: 2019年10月総会時の2020年地金需給バランスは年間ベースで28.1万tの余剰)

この内、中国は鉱石生産が39万t(2019年1～3月比3.7%減)、地金生産は226万t(4.2%減)、地金消費は283万t(4.1%減)だった。その他、国際銅研究会の主なコメントは以下の通り。

【鉱石生産】

- ・ チリは、2019年のチュキカマタ鉱山操業中止による生産制限などから回復し1%増加
- ・ ペルーは、COVID-19 感染拡大の規制による操業中止や悪天候、操業トラブルなどの影響により3月単月で25%減少し、1～3月は12%減少
- ・ 中国は、COVID-19 感染拡大の規制による操業中止で4%減少
- ・ コンゴ民主共和国(DRC)は、一部鉱山の生産能力増強により4%増加

【地金生産】

- ・ チリは、2018年12月～2019年7月にチュキカマタ製錬所が新しい環境規制に対応するために操業を中止していたことから12%増加
- ・ 中国は、COVID-19感染拡大の規制による操業停止やスクラップ供給の逼迫などにより4%減少
- ・ 日本は、2019年に直島製錬所が定修を行っていたことから8%増加

【地金消費】

- ・ 中国はネット輸入が8%増加したが、製造業がCOVID-19感染拡大の規制を受け見掛け消費(未報告在庫の増減を除外)は4%減少
- ・ 主要消費国の中ではEUは2.5%減少、米国は3%減少(推定)、日本は6%減少

3. 供給障害

◆ チリ北部でマグニチュード6.8の地震発生(チリ)

6月3日、チリ北部の内陸部でマグニチュード6.8の地震が発生した。震源地はサンペドロ・デ・アタカマの南西約62Kmの場所で、震源の深さは145Km。近郊にチュキカマタ銅鉱山、ミニストロ・アレス銅鉱山を保有するコデルコ(チリ)をはじめ、BHP(豪英)やアントファガスタ(チリ)に被害や操業への影響はなかった。また、震源地に近接するアタカマ塩湖でリチウム採掘を行うアルベマール(米)とソシエダード・キミカ・イ・ミネラ(チリ)も操業に影響はなかった。

◆ ボリデン、ケビッツァ銅・ニッケル鉱山で火災発生(フィンランド)

ボリデン(スウェーデン)は、5月28日にフィンランドのケビッツァ銅・ニッケル鉱山で火災が発生したことを発表した。火災による負傷者はいなかったが、破碎設備が被害を受けて一時的に操業を中止、その後90%の生産能力で操業を再開した。通常生産体制への修理期間は2～3か月を見込んでいる。同鉱山では2019年に754万tの鉱石から銅精鉱20万t、ニッケル精鉱9千t、コバルト精鉱400tなどを生産している。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

6月1日	6月3日	6月8日	6月11日	6月16日	6月23日	6月26日
620	640	660	670	660	670	680

2. 銅地金生産・出荷・生産者在庫(2020年5月分=令和2年5月分)

	2020年5月	2020年4月比	2019年5月比
生産	132,708 t	+12.8%	-0.8%
出荷	119,029 t	+0.3%	-0.0%
在庫	117,658 t	+13.2%	+0.0%

(出典)日本鉱業協会受払

生産は前月比が2か月ぶりの増加、前年同月比は2か月連続の減少となった。出荷は前月比が2か月ぶりの増加、前年同月比は2か月連続の減少。内訳は内販が前月比21.5%減、前年同月比22.5%減の5万9千tで、それぞれ2か月ぶりの減少と11か月連続の減少。輸出は前月比37.5%増、前年同月比39.2%増の6万tで、それぞれ2か月ぶりの増加と6か月連続の増加。内販のうち電線向けは前年同月比22.2%減の3万8千tで8か月連続の減少、伸銅品向けは23.7%減の1万9千tで14か月連続の減少。在庫は前月比が4か月ぶりの増加、前年同月比は5か月連続の増加となった。

3. 需要部門別動向

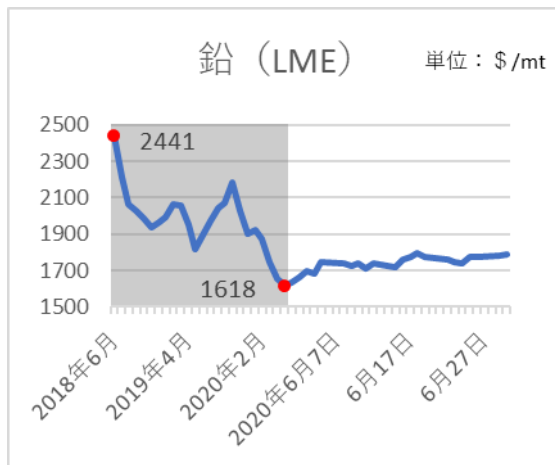
(一社)日本電線工業会によると、2020年5月の銅電線出荷は前年同月2019年5月比26.3%減の4万2千t(推定)と8か月連続で減少し、1975年1月以来の低水準となった。うち内需は前年同月比25.5%減の4万1千tで4か月連続の減少、輸出は62.1%減の500tで5か月連続の減少。内需の部門別では、通信が2か月連続の増加、自動車と電力が2か月連続、電気機械が21か月連続、建設・電販が4か月連続の減少となった。

(一社)日本伸銅協会によると、2020年5月の伸銅品生産は前年同月2019年5月比22.4%減の4万8千t(速報)と18か月連続の減少となった。総生産量が5万tを割り込んだのは2009年5月以来。品種別には、半導体、コネクタ、自動車端子向けの銅条が前年同月比17.4%減で2か月ぶりの減少。自動車端子向けの黄銅条は33.6%減で16か月連続の減少。コネクタ向けの青銅板条は11.7%減で4か月ぶりの減少。エアコン向けの銅管は17.4%減で4か月連続の減少となった。

鉛

【海外】

1. 価格推移



- ・ COVID-19 感染拡大の影響により依然として低水準
- ・ 年初来安値となった 5 月 14 日 \$1,576.50 からは回復したものの、6 月は \$1,700 台を低迷推移

(2018 年 6 月～2020 年 5 月の値は月平均)

2. 需給動向

国際鉛亜鉛研究会(ILZSG)の6月23日発表によると、2020年1～4月の世界の鉛鉱石生産は145万t(2019年1～4月比5.0%減)、地金生産は365万t(6.8%減)、地金消費は364万t(7.3%減)で、地金需給バランスは+1.1万tの余剰だった。(協会注:2019年10月総会時の2020年地金需給バランスは年間ベースで5.5万tの余剰)この内、中国は鉱石生産が61万t(2019年1～4月比3.6%減)、精鉱輸入は21万t(20.7%減)、地金生産は143万t(10.5%減)、地金のネット輸入は0.4万t(93.7%減)で、この結果、見掛け消費(生産+輸入-輸出±上海取引所在庫/国家備蓄)は147万t(8.8%減)となった。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

6月1日	6月5日	6月17日
240	249	252

2. 鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2020年5月分=令和2年5月分)

	2020年5月	2020年4月比	2019年5月比
生産	18,260 t	+19.2%	+8.0%
出荷	11,988 t	-23.5%	-19.1%
在庫	18,415 t	+51.5%	+23.8%

(出典)日本鉱業協会受払

生産は前月に竹原製錬所の設備トラブルがあったため前月比は増加、前年同月比は前年に小坂製錬所の設備トラブル、細倉製錬所の定修があったため増加。出荷は内需の減少により前月比、前年同月比ともに減少。前年同月比は3か月連続の減少となった。在庫は販売減により前月比、前年同月比ともに増加。前年同月比は4か月ぶりの増加となった。

3. 需要部門動向

4月の自動車生産台数は前年同月比46.1%減の438,770台となり7か月連続で前年同月を下回った。乗用車は前年同月比7か月連続の減少、トラックは9か月連続の減少、バスは3か月連続の減少となった。

5月の自動車輸出台数は前年同月比38.1%減の119,920台となり、8か月連続で前年同月を下回った。

一方、4月の二輪車生産台数は前年同月比23.3%減の35,823台となり、3か月連続で前年同月を下回った。

(一社)電池工業会によると、4月の自動車用鉛蓄電池のメーカー販売個数は、新車用、補修用、輸出用、二輪車用を合わせた総合計で1,487千個(前年同月比20%減)と7か月連続で減少、自動車用以外の鉛蓄電池も466千個(18%減)と3か月連続で減少した。その結果、鉛蓄電池のトータル出荷は1,953千個(16%減)と7か月連続で減少した。

鉛関連製品生産統計(2020年4月分=令和2年4月分)

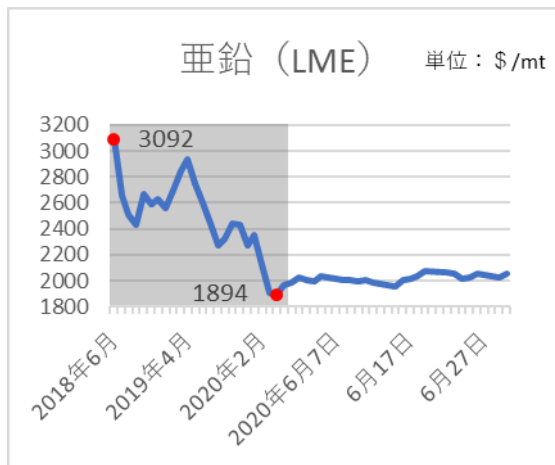
	2020年4月	2020年3月比	2019年4月比
自動車	438,770台	-47.1%	-46.1%
自動車用鉛蓄電池(鉛量 t)	14,034 t	-4.9%	-10.9%

(出典)一般社団法人日本自動車工業会、経済産業省生産動態統計調査

亜鉛

【海外】

1. 価格推移



- ・ COVID-19 感染拡大の影響により依然として低水準
- ・ 底値の3月25日 \$1,774からは回復したものの、6月は \$1,900～\$2,000 台を低迷推移

(2018年6月～2020年5月の値は月平均)

2. 需給動向

国際鉛亜鉛研究会(ILZSG)の6月23日発表によると、2020年1～4月の世界の亜鉛鉱石生産は386万t(2019年1～4月比5.7%減)、地金生産は442万t(2.5%増)、地金消費は418万t(4.8%減)で、地金需給バランスは+24.0万tの余剰だった。(協会注:2019年10月総会時の2020年地金需給バランスは年間ベースで19.2万tの余剰)

この内、中国は鉱石生産が125万t(2019年1～4月比4.8%減)、精鉱輸入は70万t(52.3%増)、地金生産は201万t(7.5%増)、地金のネット輸入は10万t(54.5%減)で、この結果、見掛け消費(生産+輸入-輸出±上海取引所在庫/国家備蓄)は199万t(0.5%減)となった。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

6月4日	6月9日	6月12日	6月19日
274	277	268	274

2. 亜鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2020年5月分=令和2年5月分)

	2020年5月	2020年4月比	2019年5月比
生産	42,430 t	+12.2%	-7.1%
出荷	34,271 t	-3.1%	-11.5%
在庫	76,264 t	+11.5%	+8.7%

(出典)日本鉱業協会受払

3. 需要部門動向

4月の亜鉛めっき鋼板生産は前年同月比25.6%減の595千tとなり7か月連続で前年同月を下回った。

(一社)日本伸銅協会によると、2020年4月の伸銅品生産は前年同月比2.6%減の59,770t(確報値)と17か月連続の減少となった。黄銅製品では、黄銅条が11.8%減の7,345tで15か月連続の減少。黄銅棒が10.9%減の13,605tで3か月連続の減少となった。

亜鉛関連製品生産統計(2020年4月分=令和2年4月分)

	2020年4月	2020年3月比	2019年4月比
亜鉛めっき鋼板	595千 t	-28.5%	-25.6%
黄銅製品	23,766 t	-4.3%	-11.9%
亜鉛ダイカスト	1,083 t	-18.0%	-26.5%
酸化亜鉛(亜鉛華)	4,134 t	-21.9%	-18.3%

(出典)一般社団法人日本鉄鋼連盟、経済産業省生産動態統計調査

金

【海外】

価格推移



- ・ 安全資産とされる金の相場は依然として高水準
- ・ 6月29日、2012年10月以来の高値となる\$1771.60

(2018年6月～2020年5月の値は月平均)

【国内】

1. 建値推移(円/g)

6月1日	6月2日	6月3日	6月4日	6月5日	6月8日	6月9日	6月10日
6,030	6,041	6,052	5,988	6,045	5,960	5,949	5,970
6月11日	6月12日	6月15日	6月16日	6月17日	6月18日	6月19日	6月22日
5,991	5,956	6,004	5,984	5,977	5,962	5,958	6,055
6月23日	6月24日	6月25日	6月26日	6月29日	6月30日		
6,072	6,098	6,100	6,098	6,136	6,158		

2. 金地金生産・出荷・生産者在庫(2020年5月分=令和2年5月分)

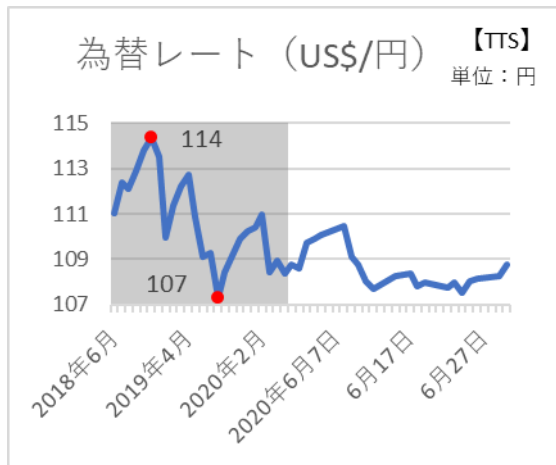
	2020年5月	2020年4月比	2019年5月比
生産	8,454kg	+8.4%	-23.0%
出荷	8,122kg	-12.3%	-23.5%
在庫	4,231kg	+8.5%	-20.1%

(出典)経済産業省生産動態統計調査

生産は前月比が2か月ぶりの増加、前年同月比は4か月ぶりの減少となった。出荷は前月比が2か月連続の減少、前年同月比は3か月ぶりの減少となった。在庫は前月比が2か月ぶりの増加、前年同月比は2か月連続の減少となった。

為替相場

為替相場推移



- 6 月前半は米経済活動再開に伴い \$1=110.48 円までドル高が進んだものの、後半は COVID-19 第 2 派懸念でダウ平均と共に反落

(2018 年 6 月～2020 年 5 月の値は月平均)